

第70回紀の国わかやま国体

公開競技パワーリフティング報告

2015年9月20-21日、和歌山県広川町民体育館

写真・報告：JPA常務理事、物江 毅



17年前、神奈川松田町からデモ競技として国体に参加してきたパワーリフティング。

関係各位の努力が結実し、本年から公開競技に昇格した。永らく国体正式参加に尽力してこられた方々にとって今回のステップアップは感無量であった事であろう。

これらの諸氏の情熱に応える様に、和歌山県広川町民体育館に全国からブロック大会を勝ち抜いて集った

105名の精鋭が熱戦を展開、公開競技に相応しい盛り上がった大会となった。

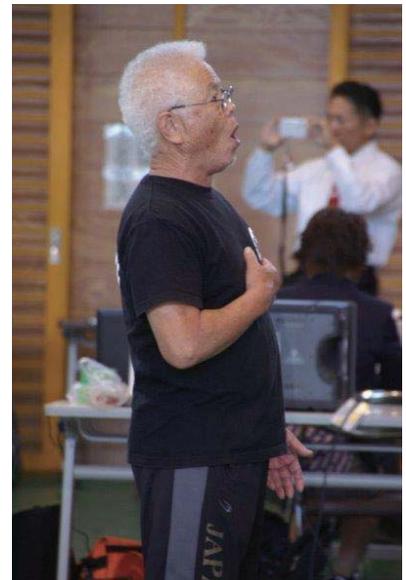
9月20日

第1セッション Aグループ 女子全階級

今回、参加人数が12名であった事から全階級同セッションで、フォーマーポイント比較による試合形式となった。

私は中央の役員席から日本パワー界の女王・北村真由美選手が、どのような試技を見せるか、北村さんに肉薄する選手はいるのか、若手の台頭はどうかという観点で観戦させていただいた。

結果的に北村さんは、S Q 150 B P 100 D L 173(日本新) T L 423 F P 455.36 で優勝されたが、11月



念願の公開競技パワーリフティング国体の開幕、君が代を歌うのは、M5で活躍する藤田選手

半ばに開催される世界P L大会に向けて微妙な時期での本大会開催であったため、あまり無理をせず、怪我をしない試合運びをされたという印象だ。それでもD L第三試技で日本新 173 k gを引き切った際には、「会心の微笑み」の片鱗を披露してくださった。本年3月同体育館で開催されたジャパクラシックP L大会同様、ご自分の試技が終わると、恩師の浅間成敏氏と一緒に積極的に補助チームの一員として甲斐甲斐しく働いておられた。翌日MCに入ったJ P A山口真人理事も、この北村さんの行為を絶賛、観客の皆さんに紹介しておられた。

2位には女子ノーギアPL界軽量級の第一人者・可児理恵選手(岐阜)が五試技成功ということで、会心の試合運びではなかったが、TL327.5kg F Pで北村さんに10.84差で入った。93kg級で夫婦同時国体出場を果たしたご主人と、会場でご両親の試技ビデオを撮影していた理恵さん似のお嬢さん、とても素敵なファミリーであった。理恵さんは試合後「将来3人で試合に出たいです!」と語っておられた。

3位は日本女子パワー界若手のホープ・寺原万留々選手(京都)が、八試技成功、S Q + D LのT Lで北村さんに3kg差と肉薄する健闘で入った。万留々さんは、9/16に日本体育協会が主催した和歌山国体プレスリリースで、とてもしっかりとかつ爽やかにパワーリフティングを紹介してくださった。

以下4位はD Lで北村さんや寺原さんに匹敵する力量を見せた居鶴直子選手(富山)、5位はパワー界の新星・野間口志保選手(東京)、野間口さんもS Q + D Lでは、北村さんの絶対重量に迫っていた。6位はベテラン寺村美香選手(北海道)で、流石の貫録を見せた。



国体女子一位は北村選手(写真下)、二位はご夫婦で出場した可児選手(写真右)





国体女子三位、寺原選手

第1セッション Bグループ 男子59kg級

SQでただ一人190kg台を連発した宮城善選手(沖縄)が、BP・DLとも2試技ずつ成功しTL 540kgで2位に22.5kgの差をつけ優勝した。3種目とも穴がないオールラウンダーという印象で、身体も見事にビルドアップされていた。

2位には久保元人選手(大阪)が9試技成功、TL 517.5kgで入った。DL得意という印象の久保さんであるが、今大会は3種目とも安定していた。

3位は今年度全日本PL大会59kg級チャンプ・ベテランの水野貴章選手(千葉)で、TL 512.5kg。こちらも8試技成功と安定していた。そろそろM2に達する年齢の水野さんであるが、フルギア・ノーギアともまだまだ強いという印象であった。

4位はDL第三試技で2位狙いの230kgに挑戦した大谷剛史選手(兵庫)でTL 507.5kg。5位は三河涼選手(神奈川)TL 467.5kg、6位源田清和選手TL 465kgという結果であった。

第2セッション Cグループ 男子66kg級

このクラス第一人者の井上雄介選手(兵庫)が貫録を見せ8試技成功、SQ 230.5(日本新) BP 160 DL 245 TL 640.5kg FPも参加選手中ただ一人500を超え503.56でベストリフターも獲得した。

2位には、井上選手にSQ・DLでは五分の試技を見せた渋谷優輝選手(千葉)TL 610kg、BPをあと20kg程度伸ばせば、井上さんと互角の勝負になるのではないかという印象だ。

3位には木村琢磨選手(東京)がTL 570kgで入った。木村さんは元々シングルBPの選手であったが、ここ2年ほどPLのTLも順調に伸ばしている。

このクラスはレベルが高く、全ベストリフター順位で渋谷さんが2位、木村さんが5位であった。4位は合



男子66kg級は井上選手の貫録優勝



田孝宏選手(沖縄) T L 532.5kg、5位は飯村貴弘選手(茨城) T L 515kg、6位には今大会出場選手最年長・65歳・J P A 理事・医科学委員長の蜂須貢選手(神奈川)が490kgで入った。しかも蜂須さん、1週間前のジャパンクラシックマスターズP L大会。広島でのボディビル大会と1週間に3大会掛持ちという大健闘であった。

第2セッション ・ Eグループ P 男子74kg級

このクラスでは、フルギアも強い

伊勢崎勝史選手(埼玉)が3種目ともトップ、T L 650kgで2位に47.5kg差をつけ圧勝した。伊勢崎さんはT X Pで練習しており、出来れば東京の選手としてご出場いただきたかった。

2位には東北大学生として数年前から関東学連の試合に出場していた山本航平選手が9試技成功、T L 602.5kgで入った。

3位は西村直樹選手(三重)でTL570kg、4位には同TL体重差で宮崎賀寿雄選手(静岡)、5位伊藤知樹選手(愛知)TL565kg、6位押田佳剛選手(神奈川)TL550kgという結果となった。

9月21日

第1セッション A・Bグループ 男子83kg級

今大会の前哨戦となった本年3月のジャパンクラシックPL大会。そこで最高に盛り上がったのが83kg級の試合であった。パワー界の玉三郎・福島勇輝選手(静岡)、東京の横田正敏選手、愛知の日高豪志選手が大熱戦を展開、DLで最終試技260kgを引き切った横田選手頭上に栄冠が輝いた。この3名に加えて、今回、芦原徹選手が階級を上げて参戦、さらに国体関東ブロック最終予選で横田選手を破った森友秀選手(神奈川)も参戦、メンバーを見ただけでワクワクするような試合となる事が期待された。

試合が始まるとSQでは、順調に3本とも決めた芦原さんが252.5、同じく森さんが245と順調な滑り出し。横田さんは235、福島さんは230、日高さんは222.5、30kg差圏内に5人が入っている。BPでは世界チャンプの福島さんが197.5で他を圧倒、森さんも強く182.5 芦原さんは170、日高さん147.5 横田さん第一試技のみ145とやや苦戦。SubTLで福島さん・森さん427.5 芦原さん422.5 横田さん380 日高さん370という順位となった。横田さんは270近いDLの力があるが、やや離され過ぎか? SubTLでトップに立った福島さん、森さんで



83kg級は大接戦、ベンチ ダントツの福島選手。

あるがDLに関しては、競っている3名に比較してやや分が悪い。DLが開始され森さん 210-225、福島さん 220-230に成功、日高さん 235-250、芦原さん 250-260 横田さん 250-265と夫々第二試技まで順調に成功。この時点で芦原さんがTL682.5で頭二つほど抜け、ほぼ優勝確定。福島さん 657.5 森さん 652.5、横田さん 645、DLが強い京都の大学生・古川潤選手が620 日高さん 620という順位であった。第三試技森さんが232.5に成功し、TL660で試技終了、それを見ていた福島さん、体重差2位狙いに切り替え232.5を引き切り、森さんを躲す。日高さんは267.5に失敗、TL620kgで6位に終わった。横田さんはTL自己タイを狙い270に挑むが失敗4位に終わる。芦原さんも同重量270を引き切れず終了、古川さんはこれだけのメンバーの大トリで登場し275を見事に弾き切り TL635kgで5位と大健闘という結果となった。

試合後芦原さんと話したところ、「(弟の健さんが74kgなので)当面83kgで勝負します。次の試合ではTL700kgを超えます!」と笑顔で抱負を語ってくれた。横田さんも本部席の私のそばにやってきて「応援いただき有難うございました!今回は残念な結果となりましたが、自分の欠点が見えたので、来年のジャパンクラシックPL大会で必ずリベンジします!!」と力強く宣言してくれた。いつも礼儀正しい横田君、本当に好青年だ!

ビッグタレントが集結、期待に違わぬ熱戦となった素晴らしいセッションであった。

第2セッション Dグループ 男子93kg級

このセッションでは、今春から東京パワーハウスのPLコーチに就任した久保匡平選手が出身の京都府登録で出場。フルギアで355kgの日本記録保持者である久保さんはノーギアでも強く、265-275と成功、第三試技283の日本記録には失敗したが、BPも150-160-165三試技とも成功、SubTL440でトップに立つ。久保さんの弱点であったDLは、パワーハウスでだいぶ改善されたとみえ、235-245と成功し、TL685kgで優勝を飾った。2位、3位にはDLで追いつけた池田翔一選手(沖縄)、森隆博選手(大阪)が各々TL660kg、655kgで入った。4位は故障の影響で本調子まで回復していなかった神野亮司選手(愛知)TL630kg、5位は私の高校の後輩・大竹優樹選手(神奈川)がTL622.5kg、6位はDLが強い斎藤正



当分83kgで戦う宣言をした芦原選手(中央)、左は久保選手、右は飯村選手。若父い力の結集。

93kg級を制した久保匡平選手



選手(埼玉)TL620kg、7位にはベテラン新田昌和選手(兵庫)が615kgで入った。

第3セッション

E グループ 男子 105kg級

F グループ 男子 120kg級・120kg超級

105kg級は関東勢3名の優勝争いとなった。SQでは内藤宏二選手(神奈川)が260で

リード、BPに入ると埼玉協会技術委員長のベテラン・関幸男選手が185と頑張り、SubTLで内藤選手422.5、関さん415と肉薄。DLでは関さんが堅実に240-255-265と三試技とも成功しTL680kgで試技を終えた。対する内藤さん、DL第一、第二試技で265が引けず、あわや失格かと思われた第三試技同重量を何とか引き切り、TL687.5kgと逆転。だが勝負はまだ決まらない。DLで300kgの力量を持つ松澤孝信選手(神奈川)が第一試技270に成功後、22.5kgUPして292.5に挑んできた。松澤さん渾身の力でバーを引くが惜しくも引き切れずTL667.5kgで終了、3位となった。

4位には地元和歌山の木原優選手がTL655kgで入り、5位は竹内鉄人選手(大阪)がTL647.5kg、6位はDLが強い佐野雅史選手(富山)が645kgで入った。

120kg級では、57歳の大ベテラン・渡辺明彦選手(千葉)が他を寄せつけない強さで安定した試技を披露し、2位に70kg以上の差をつけTL748.5kgで優勝。寡黙な渡辺さんの試技は60歳に近づいた現在でも進歩している。まさに日本PL界の驚異の存在である。

2位は青森から参戦した秋山継徳選手がTL675kg、3位にはJRの佐野誓建選手が649kgで入った。

120kg超級は、2名の参加。奥川正章選手(三重)がTL687.5で優勝。2位は越久田匡利選手がTL625kgという結果となった。

記念すべき公開競技昇格初の団体戦結果は、優勝 神奈川県 49点
2位 沖縄県 35点
3位 千葉県 34点
4位 京都府 34点
5位 埼玉県 30点
6位 三重県 30点

という順位であった。私は試技終了後、団体戦成績発表の際に、神奈川チームの近くにいたのだが、1998年の松田町のデモ競技開始から、17年後の初公開競技で団体戦を制覇できたようだという喜びが、神奈川所属の選手・役員・セコンドの皆さんに溢れていて、とても感動的な雰囲気であった。

記念すべき、初公開競技団体戦を制した神奈川県



また、3位となった千葉県であるが、一週間前のジャパンクラシックマスターズPL

石川大会でも、団体戦2位に入っており、二週続けての大健闘といえるであろう。

紀の国和歌山国体公開競技パワーリフティングは大盛会であった。来年の岩手国体も

関係各位皆で頑張って盛会にしたいとJPA関係者として強く思った大会であった。



写真上；団体四位の京都府

写真右；審判団



紀の国和歌山国体
 平成27年9月20, 21日 広川町民体育館
 資料; JPAホームページより

女子の部(フォーミュラーによる順位)

1	北村真由美	神奈川県	48	62.8	150	100	173	423	455.36
2	可児理恵	岐阜県	36	46.4	110	70	147.5	327.5	4444.52
3	寺原万留々	京都府	22	62.7	155	72.5	165	392.5	423.08
4	居鶴直子	富山県	39	56.2	117.5	70	160	347.5	407.72
5	野間口志保	東京都	42	67.6	150	70	162.5	382.5	389.96
6	寺村美香	北海道	53	51.4	95	62.5	140	297.5	374.2
7	濱口律子	三重県	44	54.9	110	75	125	310	370.45
8	照屋利恵	沖縄県	41	72.8	115	95	120	330	319.74
9	竹内裕美	岡山県	23	59.7	90	52.5	135	277.5	310.58
10	川田由紀子	埼玉県	47	55.1	85	65	100	250	297.9
11	高橋美早穂	群馬県	31	49.6	60	55	115	230	297.28
12	野村紗矢香	和歌山県	36	102	120	85	135	340	285.63

男子の部

59kg級

1	宮城善	沖縄県	29	58.7	195	122.5	222.5	540
2	久保元人	大阪府	26	58.5	175	110	232.5	517.5
3	水野貴章	千葉県	48	58.6	170	127.5	215	512.5
4	大谷剛史	兵庫県	27	59	165	122.5	220	507.5
5	三河涼	神奈川県	29	59	170	117.5	180	467.5
6	源田清和	富山県	43	57	170	105	190	465
7	田中達也	愛知県	43	58.5	157.5	105	190	452.5
8	池村正樹	三重県	41	58.8	145	120	180	445
9	小野雅史	北海道	37	58.4	140	100	200	440
10	藤田万雄	香川県	36	57.8	150	100	170	420
11	星陽一郎	滋賀県	33	58.6	150	90	180	420
12	清水和雄	和歌山県	31	50.6	117.5	100	155	372.5
13	高原浩二	栃木県	59	52.9	90	70	102.5	262.5

66kg級

1	井上雄介	兵庫県	34	65.9	230.5	165	245	640.5
2	渋谷優輝	千葉県	30	65.3	225	140	245	610
3	木村琢磨	東京都	31	64.6	195	150	225	570
4	合田隆宏	沖縄県	31	65.7	175	117.5	240	532.5
5	飯村貴弘	茨城県	25	66	172.5	127.5	215	515
6	蜂須貢	神奈川県	65	65.3	175	125	190	490
7	永井朋広	静岡県	50	64.4	170	102.5	190	462.5
8	牧井文伸	埼玉県	36	64.9	160	107.5	180	447.5
9	上野辰彦	滋賀県	39	63.5	160	100	180	440
10	丹羽弘典	香川県	54	64.9	80	95	125	300

74kg級

1	伊勢崎勝史	埼玉県	28	73.4	232.5	160	257.5	650
2	山本航平	宮城県	24	73.4	200	147.5	255	602.5
3	西村直樹	三重県	28	72.6	230	107.5	232.5	570
4	宮崎賀寿雄	静岡県	29	73	200	145	225	570
5	伊藤知樹	愛知県	46	73.8	190	140	235	565
6	押田佳剛	神奈川県	29	72.6	190	140	220	550
7	今井努	和歌山県	45	72.5	180	135	225	540
8	香川清治	広島県	42	73.4	200	130	210	540
9	平野雅之	新潟県	39	72.8	190	107.5	240	537.5
10	有我和記	福島県	26	73.1	205	110	215	530
11	芦原健	奈良県	20	71	207.5	120	200	527.5
12	谷口守	石川県	31	68.2	170	130	220	520
13	長尾秀和	香川県	47	73.7	190	130	200	520
14	大橋薫	栃木県	50	73.1	180	140	190	510
15	徳市清文	福井県	52	73	170	117.5	210	497.5
16	満名宣行	沖縄県	31	70.3	165	105	225	495
17	田邊純	兵庫県	36	73.1	150	137.5	180	467.5
18	ウルフグラム・ミ	群馬県	45	73.3	135	100	195	430

83kg級

1	芦原徹	奈良県	25	80.1	252.5	170	260	682.5
2	福島勇輝	静岡県	29	81.3	230	197.5	232.5	660
3	森友秀	神奈川県	26	82.2	245	182.5	232.5	660
4	横田正敏	東京都	26	82.1	235	145	265	645
5	古川潤	京都府	19	81.7	230	130	275	635
6	日高豪志	愛知県	29	82.3	222.5	147.5	250	620
7	宮下聡記	沖縄県	42	81.9	215	155	240	610
8	松本一人	千葉県	36	83	235	115	250	600
9	吉田晃	新潟県	26	83	200	145	240	585
10	大島逸生	大阪府	23	80.6	210	150	220	580
11	土谷智則	島根県	43	77.5	185	140	235	560

12	馬倉実	和歌山県	49	82.2	210	127.5	205	542.5
13	甫木優介	北海道	27	82.5	185	135	220	540
14	野口真	石川県	47	82.7	190	112.5	210	512.5
15	高梨朋哉	茨城県	28	81.7	170	120	210	500
16	高木均	群馬県	50	80.2	165	127.5	170	462.5

93kg級

1	久保匡平	京都府	28	92.9	275	165	245	685
2	池田翔一	沖縄県	31	92.2	240	160	260	660
3	森隆博	大阪府	26	93	250	145	260	655
4	神野亮司	愛知県	34	91.3	225	165	240	630
5	大竹優樹	神奈川県	39	89.2	207.5	167.5	247.5	622.5
6	齋藤正	埼玉県	34	87.6	215	135	270	620
7	新田昌和	兵庫県	53	90.5	240	135	240	615
8	鈴木孝	三重県	41	92.5	210	150	245	605
9	作原恵太	千葉県	30	92.2	220	152.5	220	592.5
10	西章登	和歌山県	27	90.7	225	140	220	585
11	目黒英一	茨城県	46	91.1	210	157.5	212.5	580
12	武藤輝明	秋田県	51	86.8	190	130	230	550
13	可児暢也	岐阜県	36	92.7	187.5	135	225	547.5
14	北出良	石川県	34	91.4	180	150	215	545
15	有澤史也	香川県	22	89	180	102.5	215	497.5

105kg級

1	内藤宏二	神奈川県	27	100	260	162.5	265	687.5
2	関幸男	埼玉県	47	102	230	185	265	680
3	松澤孝信	神奈川県	23	102	245	152.5	270	667.5
4	木原優	和歌山県	24	101	230	160	265	655
5	竹内鉄人	大阪府	42	95.4	232.5	165	250	647.5
6	佐野雅史	富山県	30	97.8	220	145	280	645
7	大光智史	岡山県	35	97.5	210	162.5	267.5	640
8	児山栄樹	宮城県	57	102	245	160	230	635
9	柴正尚	静岡県	31	104	225	167.5	230	622.5
10	齋藤誠一郎	栃木県	46	100	232.5	147.5	212.5	592.5
11	西田昇一郎	千葉県	39	102	210	135	240	585
12	加藤男一	新潟県	47	98.3	130	135	200	465

120kg級

1	渡辺明彦	千葉県	57	116	260	206.5	282	748.5
2	秋山継徳	青森県	36	120	250	165	260	675
3	佐野誓建	京都府	20	107	237.5	130	281.5	649
4	大矢浩貴	愛知県	22	109	165	155	180	500
5	高岡朋介	兵庫県	33	118	175	120	175	470

125kg以上級

1	奥川正章	三重県	34	127	267.5	165	255	687.5
2	越久田匡利	神奈川県	37	127	260	115	250	625

団体戦

1	神奈川県	49点
2	沖縄県	35
3	千葉県	34
4	京都府	34
5	埼玉県	30
6	三重県	30